

## 海域の概要

本湾は、北西部を日本海に開いた湾で、北東部には海の中島と呼ばれる砂嘴が存在します。湾奥には博多港があり、朝鮮半島に近いという地理的要因を踏まえて、古くからの国際港として栄えています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：7.7 km

面積：134.2 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：2.3 m

湾口最大水深：1.7 m

閉鎖度指標：2.04

備考：環境基準類型指定水域

## Location

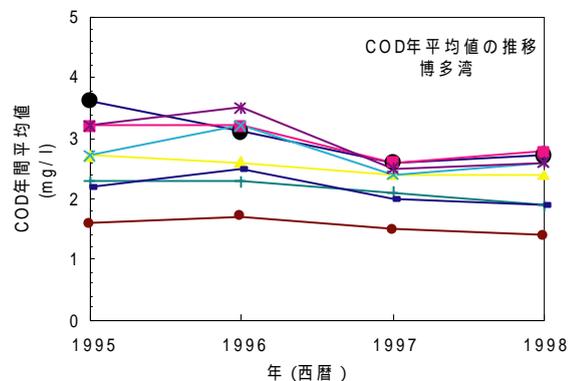
### 範囲または位置

福岡県福岡市明神鼻と同市西浦崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

湾内の水質は、背後に福岡市という大都市を擁することもあり、陸域からの流入負荷と海底に蓄積された有機汚濁物質により富栄養化が進んでおり、COD年平均値では、湾口の外海水の影響を受けやすいところで2mg/lを下回る以外は2~4mg/lの高い水準で推移しています。このため博多湾水質保全計画及び博多湾特定や水域高度処理基本計画により、水質改善が図られています。



## 自然

博多湾は国立海浜公園にも指定されている海の中道により玄界灘と隔てられた湾で、湾西岸は玄海国立公園に指定されています。海域と海岸域は、豊富な生態系を有する和白干潟や、砂浜、磯浜などの変化に富んだ自然海岸、貴重な海浜植物群落が見られる唐原川河口付近など豊かな自然環境が残っているところです。魚類や甲殻類などの游泳生物は65種、底生生物は、環形動物59種、軟体動物19種、節足動物36種を中心に127種が生息し、海藻類は54種が確認されています。また、博多湾は、渡り鳥を中心に観察される野鳥の種類は我が国固有数であり、現在までに320種類以上の野鳥が観察されています。とりわけ、クロツラヘラサギ、カラシラサギ、ズグロカモメなどは国際的貴重種であり、ミヤコドリも定期的に渡来しています。



海の中道

特に和白干潟には、鳥の餌となる貝やゴカイ、カニなどの多くの底生生物が生息していることから、朝鮮半島などからの渡り鳥の重要な中継地、越冬地となり、全国的にも有数の野鳥飛来地として知られています。

## 文化歴史

博多湾に面する福岡市は、朝鮮半島や中国大陸に最も近いという地の利に恵まれ、古くから大陸文化の受入窓口としての機能を果たしてきました。紀元前4世紀には、我が国最初の水田稲作が開始されています。

志賀島で発見された金印は、1世紀ごろの大陸との交流を物語る確かな資料です。7世紀から11世紀にかけては「鴻臚館」が交流拠点となり、16世紀には博多の豪商が利を求めて海を渡りました。そして明治22年の市政施行で福岡市が誕生しました。

## 産業

湾内および玄界灘では沿岸漁業が盛んで、新鮮な魚介類を提供しています。

玄界灘に面した政令指定都市・福岡市は、人口120万人を超え、九州・山口における中枢都市として発展しています。福岡市経済の基本を市内総生産で見ると、約6兆2000億円(平成6年)で、日本の国内総生産の約13%にあたります。



博多港の香椎パークポート